

六中草創期の思い出

(四)

学校・父兄会 同窓会三位一体の朝陽会誕生

石田宗義

府立六中は開設されたが、内部の組織や処理規定が何も出来ていない。それで、まずそれから一つ一つ手を着けて行かなければならなかつた。その第一着手として取上げられたのは、生徒を主体とする校友会、保護者を中心とする父兄会、それに将来当然設けられるべき同窓会の会則設定の仕事であつた。

原案の起草には私が當つたが、草案が成つて、これを父兄の加藤規衛氏（弁護士）に見せると、よからうというので、早速、父兄、職員（合同代表者会）に提案して審議を求めることにした。

この会でも大体異議はなかつたが、たゞ校長を会長にするのはどうかという点に疑義が起り、かなり突つ込んだ論議がかわされた。

その理由とするところは「父兄会は学校を後援する立場にあり、学校はそれを受ける側にある。受ける側の校長が会長に当るのは主客転倒でもあり、将来、校長独断

の恐れはないか」というのである。そこで、私は提案者として概ね次のような趣旨弁明を試みたのである。

すなわち、この案は、学校、父兄会、同窓会が三位一体となつて六中を守り立てようとする

理念から出発したもので、主もなければ客もない。大家族主義

の精神からすれば、家長ともいふべき校長が会長に任ずるのは

むしろ自然ではないだろうか。而もこれを原則として定めてお

けば、この後、会長争奪などの紛争も起らないし、それに、将

来同窓会も強大化し、父兄会も逐次、入れ代る役員によつて変化し、万一、胸に一物ある野心家に会長を委ねるようなことにならぬと、膨大な予算の上に安坐をかりて学校に盾をつくが如き事態を惹き起さないとも限らない。もし仮に会長に違法の行為があつたとしたら、校長ならば準官吏の身分に在るから処罰も容易であり、不正を取締るにも都合がよい。

「やはり原案通りでよいではありませんか」父兄側も「判つた、それでよからう」と手をうつてくれた。そこで案は、確定、成立しいよいよ「財団法人朝陽会寄附行為」の設定認可申請となつた。ところがこれに伴なう基金調達で手配がつかず困つていると、父兄の

がボンと五千円を出資してくれて登記を済ませることが出来た。そこで校長の会長下で、理事、評議員、監事など役員が選ばれ、会の陣容も整い、取急ぎ予算を編成して、実施事業の企劃に入つた

塩見海岸の土地を買収

第一に取上げられたのは、差迫る夏季施設として、游泳場設営の件であつた。それには村上君（後の吉田久義君）が高師在学中、館山に游泳場があつた関係上、その辺の地理に詳しいので場所の選定土地の買収など一切同君が引受け私も事務の関係で介添として参加することとなり、直様、調査、交渉に取りかかつた。

(つづく)

その頃、房州地方は既に東京人士の避暑地化し、内外海とも海岸という海岸は、各種諸学校の水泳場として占拠されていたので、新規に割込む余地は全然なかった。ただ館山以南白浜にかけて、わずかながら、昔のままの農漁村として残されてあるので、専らその方面を物色することとし、現地視察に出かけて見ると、館山の隣接、西

岬村の塩見海岸が最も好適の地であることが判った。

海岸線は緩い弧を描いた湾形を成し、南に開いた遠浅でその上、北方に沖島、鷹島が沖深く突出し、岩礁に砂土が乗上げ、それに松がはえたといった無人島だが、見事に防波堤の役目を果している。

なお、幸なことには、選定地の海岸寄りに何一つ建物が無いので、有利な立地条件であった。

しかし、買取予定の四千坪は驚くべし、五十何筆という小地主によって分割所有されていて、個々に交渉しては急に間に合わ

つげ滞りなく登記を済ませたが、

「ぜよう」と最大級の好意を示されたので、後日を約して二人は

あつた三十幾年後の今でも、時折

想出しては冷汗三斗の始末である

急騰する。

喜び勇んで一旦東京に引揚げた

想出しては冷汗三斗の始末である

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

六中草創期の思い出 (五)

塩見海岸土地買収に苦勞する

石田宗義

「ぜよう」と最大級の好意を示されたので、後日を約して二人はあつた三十幾年後の今でも、時折想出しては冷汗三斗の始末である急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

急騰する。

（未完）